

I. 授業の概要

人文地理学は自然地理学とともに系統地理学を構成し、地表面における人間の存在や活動のあり方を、集落、産業、交通、人口などの事象別に考察し、その地域的特質や空間的構造を明らかにしようとする学問である。本講義では、人間の諸活動と環境との関係を中心に、事例地域の分析を通じて現代人文地理学における様々な課題にアプローチする。なお、この科目は課程認定科目である。

この科目は課程認定科目である。

授業の到達目標は次の3つである。①人文地理学の基本概念を理解する。②様々な人文事象について主題図を用いて理解したり表現したりすることができる。③人文事象の考察を通じて地域の特質や空間的構造を理解することができる。

関連するディプロマ・ポリシーは、教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

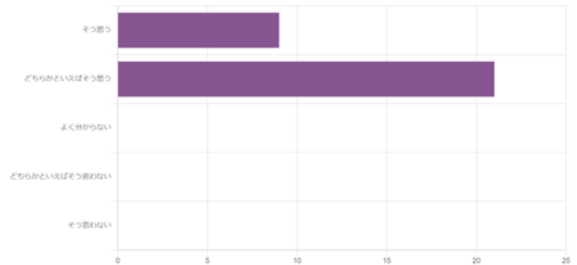
授業内容と授業計画は次である。第1回 ガイダンス、第2回 人文地理学の歴史と性質、第3回 人文地理学の方法と理論、第4回 地図表現と主題図の解析、第5回 フィールドワークの準備、第6回 フィールドワークの実施、第7回 商業の立地、第8回 農業の立地、第9回 フィールドワークの成果発表、第10回 工業の立地、第11回 都市の立地、第12回 人口の分布と移動、第13回 施設の立地、第14回 人文地理学研究の新動向、第15回 まとめ・期末試験。

II. 授業評価の方法と結果

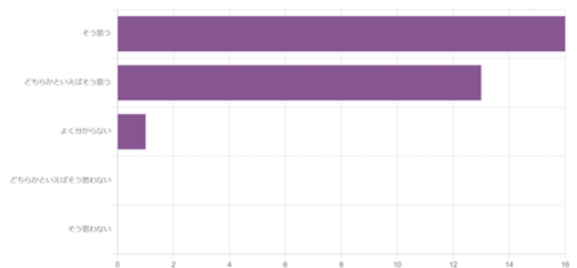
2024年2月6日(火)に、「人文地理1」に関して無記名式で授業評価をしてもらった。履修登録者31名から30名の回答を得た。そ

の主な結果は次の通りである。

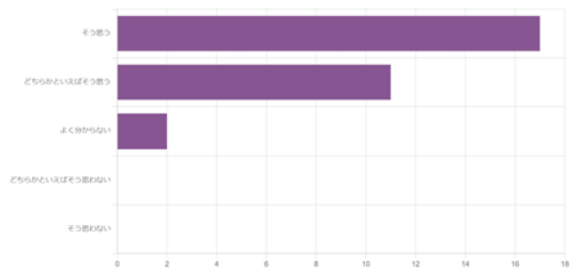
1. この授業の内容を理解したと思うか



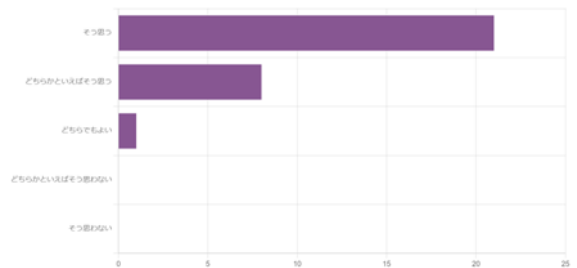
2. 主題図等の提示は適切だったか。



3. GeoActivity は、授業内容の理解に役に立ったと思うか。



4. フィールドワークを実施したことは良かったと思うか。



III. 記述内容について

受講者にフィールドワークを通じて分かったことを聞いたところ、参考になる記述があり、例を挙げておく。

地図上で見た内容と実際の町の風景の一致や変わりゆく町の姿を平面から立体として感

じ取ることが出来た。

商店街には昔からあるお店もあれば最近できた商店が入りまじっていて、時代とともに形が変わってくるとわかった。

シャッターが多いことは知っていたが、昔は栄えていたということを通図を通して理解することができた。また、住民の方とも少し話ができ昔の柳井町商店街の様子について知ることができた。フィールドワークに行かなければ現地の方と話す機会は無かったので、大変勉強になった。

昔は、衣料品が多くあるイメージだったが、今はほとんどがシャッター街であることが理解できた。今でも続いている店舗も少しあるということが分かった。

松山市の変化を肌で感じることができた。最新の地図よりもさらにお店が減っていたことが分かった。

実際に町を歩くことで、地図上だけではわからない情報を得ることができたし、町の人の声を聞いてその土地の移り変わりについて知ることができた。

地図上で理解するよりも、実際に歩き、地図と照らし合わせながら調査を行うことで、多面的・多角的な考察を行うことが可能になり、その土地の歴史や形成の背景がわかった。

現地調査で紙の地図からは読み取ることのできないことを読み取ることができた。

実際にフィールドワークに行くことで、地図だけでは分からなかった情報や地図と組み合わせで見えてくるものがあったので行ってよかった。どのように街並みや土地利用が変化していったのかを様々な要素と組み合わせで考えることが大切だと分かった。

行く前に確認した変化を実際に見てどのように変化していったかを見ることができたと考える。また、地図上で変わっていたところも実際に見るとまた変わっていることもあり、目で見ることの必要性も感じた。

地図を見るだけではわからない、空気感や地域の声が聞けること。

土地利用については、空き地や駐車場が増えた印象があると共に、時代の流れに沿って商店や金物屋が減り、福祉施設や新たな事業としてのお店が増えていた。

フィールドワークという活動自体がほとんど体験したことのないものだったのでとても楽しく取り組むことが出来た。

いくつもの年代の松山の地図を見て、そしてそれぞれの違い、特徴を事前に抑えながら活動の中で感じる事が出来たので良かった。終わった後の調べ学習などにも取り組めてよかった。

南銀天街と柳井町商店街の変容について地図を見ながら理解することが出来た。また、自分たちの目で確かめることで、どのような現状なのか分かった。

普段は観察せずに通っている場所を細かく観察したのでなぜそこにその建物があるのかを考えることができた。フィールドワークを通った場所には美味しそうなお店もたくさんあったため、新しい発見になった。

長い歴史の中で街並み、建物などが変わっていくということが分かった。

地図を読み取ることを通してどのような店は続き、どのような店がなくなっていくのかということもわかった。

現地に実際に行ってみることでしかわからないこともあったりするので、細かい情報や資料を得ることが出来た。

事前のおおよそ 10 年ごとの柳井町商店街の地図の移り変わりや柳井町商店街の調べ学習を通して、街並みの変化やどのような店が立ち並んでいるのかに注目できた。昔に比べて店がかなり減って、住宅街や空き地、パーキングが増えていると感じた。

地図から分かる情報と実際に行ってみて習得する情報とでは違いがあったが、関連性や相互の情報を上手く活用することによって得られるものがある。

地図を読みながら松山の町を探索した。どのような店が現在どのように変わっているか分かった。

愛媛の地域の特徴を再認識できる機会になる自分の地元と比較したりするなどして松山の魅力を考えることができる。

IV. 次年度の改善点

授業は概ねシラバスの通り目的を達した。受講生からフィールドワークの実施時期についての指摘があった。実施時期の調整が難航で、数名の受講生は都合により参加できなかったという課題があった。次年度は第1回の授業で受講生と相談して実施時期を決めたい。